

令和7年度

亀岡小学校の教育

教育理念

「子どもは、子どもの中でこそ育つ」

【学校経営方針】

- ① 教職員の強みを生かした学級経営
- ② 教師自身の学び（研修観）の転換
- ③ 特別支援教育を中核にすえた人材育成
- ④ 人権教育を基盤にしたすべての教育活動の推進
- ⑤ 人と人との繋がりを大切にした、インクルーシブ教育の研究の推進

☆教育理念

『子どもは子どもの中でこそ育つ』を掲げ、子ども同士で自分の言葉で考えを語り合い、相手を認める文化が根付き、育っていく学校づくり「子どもを真んなか学校」を行う。
これを全ての教育活動（教育課程）で具現化する。

1 学校教育目標

グローバル化が進む社会の中で、将来、豊かに生き、活躍できる児童の育成

2 育てたい児童像

- ・自ら考え より良い判断をし 適切に行動する子
- ・しなやかな発想で 自分の可能性を拓げ 伸びていける子
- ・多様な人がいる集団の中で 自分の良さを生かし 他者を尊重し 協働する子

3 全教育課程で付けたい4つの力

- 自分も人も大切にする力（お互いを認め合い、納得する解に導く）
- 自分の考えを持つ力（まずは考える 考えて、考えて、考え抜く＝深く考える）
- 自分を表現する力（考えたことを言葉や文字、行動で表す力→自分の良さへと変容していく）
- チャレンジする力（とにかくやってみる うまいかなくても人のせいにせず、うまくいくために何をすればいいか考え、何度でもチャレンジする）

4 目指すべき学校の姿

① 児童・教職員が育つ学校(対話・協働)

- ・亀岡小の先生は、それぞれが優れた力がある。これを生かしてチーム力を高める。
- ・支援のいる児童に対応するために特別支援教育に精通した校内人材の知識やスキルを学び共有する。

② 一人ひとりの子どもを見つめ、個を受容し、個を大切に作る学校

- ・すべての児童が安心できる居場所づくりのため、別室教室や SC の有効活用を積極的に行う。
- ・特別支援学級の教育内容の充実と教育プログラム(生活単元・自立活動)の構築をはかっていく。
- ・支援学級と交流学級が連携を深め、つきたい力にせまるように努める。
- ・児童理解を目的に、積極的に一部教科入れ替え制を導入する。

③ 全ての教育活動に創意工夫を凝らし主体的・協働的な豊かな教育を実践する学校

- ・認知・非認知を両輪で学力をとられる。
- ・授業の中で、育てたい児童像やつきたい力にこだわる。
- ・児童の主体的な考えや活動を前面に出し「子どもが学ぶ・子ども同士が学び合う授業」をつくる。
- ・教師が、教えることは何か、教えすぎないほうが良いことは何かを意識して考えた授業を心がける。

④ 教師自らの資質向上を目指した意欲的な研究と着実な教育実践を進める学校

- ・特別支援学級での探求的な学びの研究を継続する。
- ・人と人との繋がりを大切に、対話・共感・協働をもとにインクルーシブ教育の研究をする。
- ・「学級経営」を強く意識した学校生活を創造する。

⑤ 健康で安心・安全な学校

- ・学校でのケガの防止やアレルギーのある児童への対応を怠らないようにする。
- ・危機管理の徹底を図り、防げる事故は必ず防ぐ。(安心・安全には時間を惜しまない。)

⑥ 地域と学校が手を取り合える学校

- ・コミュニティスクールでのアドバイスや助言をいただく。また、地域学校協働会議や民生委員会等との交流を大切にしていく。

～亀岡小学校の歴史の継承～

☆厳しさ・節度・気品そして充実とゆとりのある学校

- ・人権教育の柱として、特別支援教育を位置づけインクルーシブ教育の充実をはかる
- ・亀岡市内の特別支援教育のセンター的な役割を担う学校であるという誇り
- ・働きやすさ:年休・特別休暇(育児休や介護休)取得率向上
- ・業務の精選:運営委員会と職員会議の整理

亀岡小学校 グランドルール

1 判断基準は2段階で考えて決定

【1段階目】

「子どもにとってどうなのか」をまず考える。

【2段階目】

その判断は、以下のどちらに当てはめるべきかを考える。

一般基準：一人でやっても大丈夫でも複数でやると問題が生じるものはルールの枠は必要。

特殊基準：教育的な配慮を要する場合は、一般基準の射程としない。その際は、特殊基準の対象者以外の児童に不公平を感じさせないように注意深く話をする。

※教室のルールは一般基準が標準。しかし、そこに発達や家庭環境等の影響で適合しない、できない子がいる。その子は、特殊基準が妥当。これが分かってもらえる学級経営を。

〈自分も人も受け入れることを大切にする力〉

2

「目的」を共通理解「目標」は共通行動

手段が「目的」となっていないか再確認する。

「目標」を決めたら、具体的に何をするのかを分かりやすく。実行へ。

3

「学び合う」ことが学校の文化に

雑談から相談へ → 知っていることや経験から分かったことは惜しみなく伝え合う。

※双方向で（ベテランから若手へ 若手からベテランへ）

全員参加でやってみる → 新たなチーム・仲間（横の繋がりを）

4

失敗から学ぶ組織に

失敗からしか学べないことは多い＝失敗ではない。うまくいかない方法を見つけただけ。

〈失敗から学んだことをチャレンジする力へ〉

上手くいかなかったこと、上手くいかない方法の情報共有は必ずしておく。

上手くいった情報共有もおこない、即実行を。

5

変化を創り、そこから生まれる化学反応を楽しむ

現状把握をすることが変化への第一歩。今がわかればやってみたいこと、やることが浮かんでくる。前例踏襲を乗り越える。

「やりたい」はエネルギーが必要。そのエネルギーが「やりがい」に→

教職の復権